

## インターバイク・ラスベガス2005 開催

米国最大の自転車展示会であるインターバイク・ラスベガスが今年も開催された。当協会も小間を確保し、共同出展企業とともに出展した。

展示会の名称：インターバイク国際自転車展（interbike INTERNATIONAL BICYCLE EXPO）

会 期：平成17年9月28日～30日（他にアウトドアデモと呼ばれる屋外新モデル試乗会が9月26日・27日に実施された）

会 場：米国ネバダ州ラスベガス市 サンズ・エキスポ・アンド・コンベンションセンター

主催者名：VNU イクスポジションズ

出展社数：1,000社強

展示総床面積：660,000平方フィート（60,994.6㎡、昨年と同じ）

うち小間面積：306,800平方フィート（28,353.2㎡、昨年と同じ）

総来場者数：19,312名（昨年は21,379名）

うちバイヤー：9,781名（海外バイヤー884名）

アウトドアデモ参加者：3,773名（昨年は約3,000名）

（展示会事務局発表数値）

### 1. 活況を呈した展示会

昨年に引き続き活況を呈した展示会であった。出展社数・展示総床面積とも昨年とほぼ同様の規模、来場者数は昨年に比べ僅かに減少したものの、にぎやかな状況に変わりはない。また、展示会に先立ち実施されたアウトドアデモと呼ばれる屋外新モデル試乗会は、昨年に比べ参加者が大幅に増え、展示会の活気に花を添える形となった。展示会事務局の話によると、米国自転車市場は今年の春・夏と販売が好調だったため、多くの企業が積極策にうってでた、ということで、ある大手企業幹部は「20年間インターバイクに参加しているが、今回ほど忙しく生産的な年はなかった」、とのコメントも出している。

### 2. 展示車種について

展示の中心となっていたのは引き続きマウンテンバイクであったが、最近の傾向なのか、黒やダークグレーといった暗い色のフレームのものが圧倒的に多いことが注目された。前後サスペンション付の展示は最早当たり前、フレーム素材もカーボン、チタン等

高級なものが多く展示されていた。特にカーボンフレーム製の黒・ダークグレーといった暗い色のマウンテンバイクの展示が目立った。しかし、実際の販売状況はこれらの展示品ほど高級品が主体であるわけではなく、最近の米国自転車市場の調査結果によれば、専門小売店で最も多く売れるのはフロントのみサスペンション付マウンテンバイクということである。また、素材のチタンの価格が急騰しているという話を聞いた。これは、チタンの軍事需要が急増しているためということで、チタンフレームを用いた自転車価格に影響を与えることが心配される。また、コンフォートバイクやハイブリッド、クロスバイク等といった車種も展示されていた。実際の販売台数はかなり多く、少なくとも前後サスペンション付のマウンテンバイクなどよりは遥かに多数が販売されているにも拘わらず、展示場では地味で目立たなかった。車種の基本的な性格上止むを得ない事ではある。

一方、高級ロードレーサーの展示も多かった。ツール・ド・フランスでアームストロングが優勝を続けている効果は大きいと思われる。非常に高価な、10,000 ドルを超えるようなロードレーサーも展示されており、これら的高级ロードレーサーは、米国製のものと、欧州製のものと両方があり、興味深かった。かつて、グレグ・レモンがツール・ド・フランスで優勝したときにも、同じような状況が見られたが、その時には実際にはそれほどロードレーサーの需要が増えなかった。今回はアームストロングが優勝を続けていることもあり、レーサーの需要がかなり増えていると思われる。専門店ではここ数年でレーサーの販売台数が倍増しているという調査結果もある。

更に BMX については、専門の展示コーナーが設けられ、BMX 専門メーカーや関連用品はこのコーナーに集められて展示されていた。ウェアや用品類が独特で、どちらかと言うと、ストリートファッション系の色合いが強い。BMX に乗る人も、その影響を受けているので、ここだけ少し雰囲気異なっていた。BMX の需要は米国では減少気味で、価格も下落しているため、今後の傾向はどうであろうか。オリンピック競技に採用されたといっても、それだけで販売台数を増やすことができるのかどうか、興味深い。

### 3. 各社・各国の出展形態等について

イタリア二輪工業会が、イタリア貿易振興会と協力して大きな共同小間を確保し、大々的に出展していることが何と云っても注目された。イタリアは上海展でも同様の共同出展をしており、日本との差が歴然としている。イタリアは自転車産業・自転車輸出を重要と考えているのであろう。今回はイタリア二輪工業会の事務局長が自ら参加していたが、イタリア二輪工業会幹部が参加できない場合は、代わりにイタリア貿易振興会の現地幹部が自転車業界を代表して参加するのである。このような連携は、自国の産業を重要と考えるのであれば、ある意味で当たり前のこととも言える。またイタリアといえども、中小企業ではイタリア語だけしか話せず、英語を自由に使える人がいない企業も数多いと聞かすが、それでもみんなで協力して海外に出て出展するのである。イタリア

の展示を見ると、日本とは随分様子が異なると、いつも強く感じる。

台湾も大きな共同出展を行っていたが、ここも力があり、参加企業は多かった。また、中国も共同出展を行っていたが、非常に独特の雰囲気、あたかも中国のどこかの地方展示会を参観しているかのような錯覚をした。但し、これらの企業も必死で品質改善をおこなったり、極端な低価格を提示するところもあるので侮れない。このほか、新商品コーナーとヨーロッパ村もあったが、これらはどちらも意外に地味で、人も少なかった。

一方、我が国の完成車メーカーの取り組みは積極的と言える状況ではなかった。上海展に出展する企業はあるのに、米国に出展しないというのは、我が国の自転車産業の置かれた国際的な位置づけを考えると少し奇異にも感じられる。中国に工場進出している企業も多いので、中国工場から米国市場に輸出することは考えられないのであろうか。素晴らしいブランドを持った企業もあるので、そのブランド価値で勝負できないものかと思う。但し、展示会期間中に有力完成車メーカーが対米輸出を再開させることになった、という話を聞いた。これは明るい話といえ、こういった企業が次々と出てくることを期待したい。

反面、我が国の部品メーカーは、頑張っているところが多かった。部品メーカーは工場の海外展開をしている企業も沢山あり、活発に活動していた。小規模な部品メーカーの出展も見られたが、自社の優秀な製品を熱心に販売促進していた。

#### 4. アウトドアデモについて

展示会に先立ち、26日・27日の二日間、屋外で新モデルに試乗できるアウトドアデモが行われた。アウトドアデモ会場は、ボールダー郡ブーツレグキャニオンというところで、ラスベガス市内からバスで30分ほど行った、砂漠の岩山の中である。ここに各社がテントを張って、新モデルを持ち寄り、試乗に供するのである。完成車のほかウェアやヘルメットも貸し出されるので、万全の装備で走ることができる。展示会事務局の発表によると、初日だけで1,893名が参加、これは昨年より150名多かったとのこと。二日目も多く参加者に恵まれ、二日間で3,773名もの参加者数を集めた。これは昨年より25%も多い数である。小売店や出展企業の元気な若者の参加が多かった。

会場の手前の方はロードレーサーばかりで、いつから米国はこれほどロードレーサーが増えたのかと思ったが、これは手前が舗装路に面しているため、奥のメイン会場に行くとマウンテンバイクが沢山並べられていた。土地柄、やはりマウンテンバイクの試乗に向いていて、試乗コースがいくつか設けられていた。最たるものは、トラックの荷台にマウンテンバイクを載せて山の上まで上がり、そこからダウンヒルを下ってくるというもので、若者たちがジャンプやコーナリングをきめながら走り込んでいた。各社の新モデルを比較するため、何回も上へ昇って降りてくる人も多く見受けられた。

## 5. 当協会の出展状況について

当協会は6小間を確保し、共同出展企業を募集の上、参加した。共同出展企業は、申込順に、株式会社日東・株式会社三ヶ島製作所・株式会社マルイ・株式会社タンゲセイキ・株式会社鈴江鐵工所・株式会社テクノ南海の6社である。更に当協会の実施した新商品・新技術研究開発事業の成果物の展示を東洋フレーム株式会社・株式会社中野鉄工所・株式会社扇工業の3社が行った。このように6小間の広さにこれだけ多くの企業が参加したため、スペースは限界で、ぎりぎりの状態であった。しかし、それだけのにぎわいもあり、小間全体が活況を呈していた。各社に状況を伺ったところ、参加の手応えは良かった、と話していたので、今後の展開が楽しみである。来年度新たに当協会小間に出展参加したいとの意向を表明した企業もあった。

また、当協会独自の取り組みとして、まず、本年度作成した英文カタログ（Japan Bicycle Guide）の頒布を行った。印刷物とCDの両方を持参したが、二日目の午前中に全てなくなった。この英文カタログは、次第に浸透してきており、「また今年も作ったのか」、「継続することが大切だ」等といった意見もあったほか、ヨーロッパの業界雑誌社からは「非常に大切なことだ」との声援ももらった。来年度版への新規掲載要望を3社から受けた。

このほか、各国の業界団体や業界誌及び展示会事務局等との交流を積極的に行った。イタリア二輪工業会の事務局長とは、共同出展や関係先との連携について話を聞いたほか、来年の上海展への取り組みについても教えてもらった。中国自転車協会と協力して大規模な展示を計画しているそうである。また、台湾区自転車輸出業同業公会の事務局長、及び中国自転車協会からの派遣員と情報交換を行った。中国自転車協会は、本国で国慶節に重なるためか、或いは欧州を重視しているのか、今回は幹部の派遣は行わず、若手男性職員が派遣されていた。更に、インド・欧州の業界雑誌社、3月に開催予定の米国ハンドメイド自転車展示会事務局、メキシコの展示会事務局等が表敬に来てくれた。また、インターバイク事務局との関係は、出展を続けていく上でも、今後輸出をもっと活発にしていくためにも、非常に重要である。今回は、担当者と交流することができ、双方面識を持つことができた。今後、展示会事務局や米国自転車小売協会（NBDA）等との一層の交流の促進の必要性を痛感した。

平成17年10月12日  
国際業務部